

手と手をつないで

No.364

やまぐち ひろゆき
山口 裕之

(マザー・アース人権啓発研究所主宰)



新型コロナウイルス差別・偏見と どうたたかうのかー

国内では各地で新型コロナウイルス感染症の広がりとともに、不安や偏見による不当な差別、いじめ、SNSなどでの誹謗中傷といった新たな人権問題が発生・拡大しています。その攻撃のほこ先は、感染者や医療関係者、社会を支える仕事をしている方などに向けられています。

国連では事務総長が新型コロナウイルス感染症に関連したヘイトスピーチ(特定の人種や民族への憎しみにもとづき、差別をあり立てる発言や行動のこと)に対する世界へのメッセージの中で、「パンデミック(世界的流行)によって、憎悪(ヘイト)と外国人憎悪、そして特定の人や集団をやり玉にあげたり、デマを流布したりする行為が横行しています」「憎悪のウイルスに対する私たちの社会の免疫力を強化するため、ただちに行動してほしい」と述べました。私たちがこれからのような認識を持ち、どんな行動をしていけばよいかについてこのページでも考えてみましょう。

コロナ感染に対する最新の知識 正しい現状認識をもつこと

新型コロナウイルス感染が全国的に

広がって半年になります。これまでに間違った情報であられたり、誤った言動に走ったりする事実もありましたが、ウイルスの感染リスクや重症リスクの状態が分かってくるにつれて過度に恐れる必要もなくなってきたつあります。医学的・制度的対処も日々向上しています。

これから
は感染拡大
防止をしな
がら社会を
回していく
ことが求め
られます。
正確な知識
を常に取り
入れ、人々
の正しい行
動に学ぶこ
とによって
誤解や偏見をなくし、行き過ぎた不安
や誤った言動に自らを向かわせないよ
うにすることが大切です。



市民が正しい行動のものさしを持つこと

差別や偏見の内容・対象はこれまでにさまざまな広がりを見せています。この状況の中でも差別的発言や差別をおおる言動・SNSなどに私たち一人一人が同調せず、これをおさえしていく側に回りたいものです。

そのために、これからは単に「差別はいけない!」と語るだけでなく、具体的に「どういうものが差別になるのか」「なぜ差別になるのか」について知る、考える時間を大切にしてほしいです。その結果、一人一人が「これは、おかしいよね」と判断することができるようになることが、対策の第一歩となります。これは一人だけで考えるのではなく、たくさんの人と話題や気持ちを共有し、思いを同じにしていきたいです。

感染者・治療した人と 「いっしょにがんばる」心を育むこと

これからは感染した人、治療が終わった人が、地域社会に多数戻ってくる段階に本格的に入ります。私たちが感染者に「早くよくなってほしい」と励まし、戻ってくる人に「おかげさうさい」と伝える心情を育てることが、感染情報を隠したり、検査をすることをおそれたりさせずに、感染の防止と差別の解消につながる大切な手立てになると思います。

感染対策を進める一方で、「差別・偏見・無知が感染症対策の敵である」事実を共有し、地域社会が差別と分断で壊れてしまわないよう、みんなで手を取り合って新たな関係づくりに努めていきましょう!